

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更									
フリガナ設置者	コウリツダイガクホウジン トヤマケンリツダイガク 公立大学法人 富山県立大学									
フリガナ大学の名称	トヤマケンリツダイガクダイガクイン 富山県立大学大学院 (Toyama Prefectural University Graduate School)									
大学本部の位置	富山県射水市黒河5180番地									
大学の目的	富山県立大学大学院では、専攻分野に関する専門的な学術の理論及び応用を教授研究することにより、深遠な学識と高度な研究能力とを兼ね備えた有為な人材を育成するとともに、学術文化の向上と社会の発展に寄与することを目的とする。									
新設研究科等の目的	看護学の専門領域に関する教育・研究を自立して行い、多元的・多角的視点から、地域や社会の保健医療福祉のニーズに対応し、看護学を発展・牽引する高度な研究能力及び豊かな学識を備えた人材を養成すること。									
新設研究科等の概要	新設研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部等】 看護学研究科看護学専攻 修士課程 14条の特例
	看護学研究科 [Graduate School of Nursing] 看護学専攻 [Course of Nursing] 博士後期課程 [Doctoral Course] 計	3年	2人	-	6人	博士 (看護学) [Doctor of Philosophy in Nursing Science]	保健衛生学	令和7年 4月 第1年次	富山県富山市西 長江2丁目2番 78号	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	令和7年4月名称変更予定 看護学研究科看護学専攻 修士課程→博士前期課程									
教育課程	新設研究科等の名称	開設する授業科目の総数				修了要件単位数				
	看護学研究科 看護学専攻博士後期課程	講義	演習	実験・実習	計	16単位				
		6科目	1科目	0科目	7科目					
研究科等の名称	専任教員					助手	専任教員以外の員 (助手を除く)			
	教授	准教授	講師	助教	計					
新設分	看護学研究科 看護学専攻 (D)	10人 (10)	5人 (5)	0 (0)	0 (0)	15人 (15)	0 (0)	5 (5)		
	計	10 (10)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	5 (5)		
既設分	看護学研究科 看護学専攻 (M)	11 (11)	11 (11)	12 (12)	1 (1)	35 (35)	0 (0)	45 (45)		
	工学研究科機械システム工学専攻 (M)	8 (7)	9 (5)	3 (7)	2 (0)	22 (19)	0 (0)	0 (0)		
	工学研究科知能ロボット工学専攻 (M)	7 (7)	5 (5)	7 (7)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	0 (0)		
	工学研究科電子・情報工学専攻 (M)	16 (16)	9 (9)	8 (8)	2 (2)	35 (35)	0 (0)	1 (1)		
	工学研究科環境・社会基盤工学専攻 (M)	6 (6)	10 (10)	4 (4)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	0 (0)		
	工学研究科生物・医薬品工学専攻 (M)	14 (14)	6 (6)	6 (6)	2 (2)	28 (28)	0 (0)	1 (1)		
	工学研究科総合工学専攻 (D)	51 (51)	36 (36)	4 (4)	0 (0)	91 (91)	0 (0)	0 (0)		
	計	62 (62)	50 (50)	40 (40)	5 (5)	159 (159)	0 (0)	47 (47)		
合計	72 (72)	55 (55)	40 (40)	5 (5)	174 (174)	0 (0)	52 (52)			
職種	専属		その他			計	大学全体 ・図書館専門職員（司書）及び 守衛は、委託先から職員を派遣 ・その他の職員は自動車運転手			
事務職員	56 (56)		0 (0)			56 (56)				
技術職員	0 (0)		0 (0)			0 (0)				
図書館職員	1 (1)		9 (9)			10 (10)				
その他の職員	2 (2)		0 (0)			2 (2)				
指導補助者	0 (0)		0 (0)			0 (0)				
計	59 (59)		9 (9)			68 (68)				

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	・射水キャンパスの 建物については、 一部県からの無償 貸与(22,211㎡を3 年ごと、851.35㎡を 1年ごとに自動更 新) ・富山キャンパスの 土地(11,858㎡)及 び建物(14,898㎡) については、県から の無償貸与(3年ご とに自動更新)			
	校 舎 敷 地	117,551㎡	0㎡	0㎡	117,551㎡				
	そ の 他	92,319㎡	0㎡	0㎡	92,319㎡				
	合 計	209,870㎡	0㎡	0㎡	209,870㎡				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		81,291㎡ (81,291㎡)	0㎡ (0 ㎡)	0㎡ (0 ㎡)	81,291㎡ (81,291㎡)				
講義室等・新設研究科等 の専任教員研究室		講義室	実験・実習室	演習室	新設研究科等の 専任教員研究室	大学全体			
		53室	171室	85室	15室				
図 書 ・ 設 備	新設研究科等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	大学全体	
		看護学研究科後期博 士課程	179,296 [37,283] (179,296 [37,283])	1,474 [606] (1,474 [606])	7,823 [4,806] (7,823 [4,806])	5,595 [3,984] (5,595 [3,984])	5,302 (5,302)		- (-)
	計	179,296 [37,283] (179,296 [37,283])	1,474 [606] (1,474 [606])	7,823 [4,806] (7,823 [4,806])	5,595 [3,984] (5,595 [3,984])	5,302 (5,302)	- (-)		
	経費の見積り及び維持方法の概要		奨励寄附金、受託研究費、電源立地交付金等の外、不足する分については、富山県の運営交付金を充てる。						
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 等 の 名 称	富山県立大学大学院							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	収容定員 充足率	開設 年度	所 在 地
	工学部	年	人	年次 人	人		倍		
	機械システム工学科	4	375	-	1,430		1.05	平成2年度	富山県射水市黒河 5180番地
看護学部	4	60	-	240	学士 (工学)	1.05	平成2年度	同上	
看護学科	4	70	-	260	学士 (工学)	1.06	平成18年度	同上	
大学院工学研究科 (博士前期課程)	4	45	-	180	学士 (工学)	1.00	令和2年度	同上	
機械システム工学専攻	4	70	-	230	学士 (工学)	1.04	令和2年度	同上	
知能ロボット工学科	4	55	-	220	学士 (工学)	1.04	平成21年度	同上	
電子・情報工学専攻	4	40	-	160	学士 (工学)	1.05	平成18年度	同上	
環境・社会基盤工学科	4	35	-	140	学士 (工学)	1.10	平成29年度	同上	
生物工学科	4	120	-	480	学士 (看護学)	0.99	平成31年度	富山県富山市西長 江2丁目2番78号	
医薬品工学科	4	120	-	480	学士 (看護学)	0.99	平成31年度	同上	
(博士後期課程) 総合工学専攻	2	108	-	216		1.18	平成6年度	富山県射水市黒河 5180番地	
機械システム工学専攻	2	20	-	40	修士 (工学)	1.25	平成6年度	同上	
知能ロボット工学専攻	2	20	-	40	修士 (工学)	1.25	平成18年度	同上	
電子・情報工学専攻	2	27	-	54	修士 (工学)	0.96	平成18年度	同上	
環境・社会基盤工学 専攻	2	15	-	30	修士 (工学)	1.10	平成25年度	同上	
生物・医薬品工学専 攻	2	26	-	52	修士 (工学)	1.36	平成8年度	同上	
(博士後期課程) 総合工学専攻	3	10	-	30	博士 (工学)	0.63	令和3年度	同上	

大学院看護学研究科 (修士課程) 看護学専攻	2	10	-	10	修士 (看護学)	1.30	令和5年度	富山県富山市西長 江2丁目2番78号	
附属施設の概要	該当なし								

公立大学法人富山県立大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和6年度（2024年度）	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和7年度（2025年度）	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
富山県立大学				富山県立大学				
工学部				工学部				
機械システム工学科	60	—	240	機械システム工学科	60	—	240	
電気電子工学科	45	—	180	電気電子工学科	45	—	180	
環境・社会基盤工学科	55	—	220	環境・社会基盤工学科	55	—	220	
生物工学科	40	—	160	生物工学科	40	—	160	
医薬品工学科	35	—	140	医薬品工学科	35	—	140	
計	235	—	940	計	235	—	940	
情報工学部				情報工学部				
データサイエンス学科	40	—	160	データサイエンス学科	40	—	160	
情報システム工学科	60	—	240	情報システム工学科	60	—	240	
知能ロボット工学科	60	—	240	知能ロボット工学科	60	—	240	
計	160	—	640	計	160	—	640	
看護学部				看護学部				
看護学科	120	—	480	看護学科	120	—	480	
計	120	—	480	計	120	—	480	
学部計	515	—	2,060	学部計	515	—	2,060	
富山県立大学大学院				富山県立大学大学院				
工学研究科				工学研究科				
博士前期課程				博士前期課程				
機械システム工学専攻	20	—	40	機械システム工学専攻	20	—	40	
知能ロボット工学専攻	20	—	40	知能ロボット工学専攻	20	—	40	
電子・情報工学専攻	27	—	54	電子・情報工学専攻	27	—	54	
環境・社会基盤工学専攻	15	—	30	環境・社会基盤工学専攻	15	—	30	
生物・医薬品工学専攻	26	—	52	生物・医薬品工学専攻	26	—	52	
計	108	—	216	計	108	—	216	
博士後期課程				博士後期課程				
総合工学専攻	10	—	30	総合工学専攻	10	—	30	
計	10	—	30	計	10	—	30	
看護学研究科				看護学研究科				
修士課程				博士前期課程				修士課程から博士前期課程に 名称変更 課程変更（認可申請）
看護学専攻	10	—	20	看護学専攻	10	—	20	
博士後期課程				看護学専攻				
看護学専攻				看護学専攻	2	—	6	
計	10	—	20	計	12	—	26	
大学院計	128	—	266	大学院計	130	—	272	
富山県立大学看護学専攻科				富山県立大学看護学専攻科				
公衆衛生看護学専攻	15	—	15	公衆衛生看護学専攻	15	—	15	
助産学専攻	10	—	10	助産学専攻	10	—	10	
看護学専攻科計	25	—	25	看護学専攻科計	25	—	25	

教 育 課 程 等 の 概 要																	
（看護学研究科看護学専攻博士後期課程）																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外 の教員	
基礎科目	看護学研究特講	1年前期	○	2			○			2	2				オムニバス・共同（一部） オムニバス・共同（一部） オムニバス・共同（一部）		
	ケアシステム特講	1年前期			2			○			3	1					
	グローバルヘルス特講	1年前期			2			○			4	1					
	小計（3科目）	—		2	4		—			9	4			2			
専門科目	データ駆動型ケア特講	1年前期			2			○			4	2				1	オムニバス・共同（一部） オムニバス・共同（一部） オムニバス・共同（一部）
	ケア創出特講	1年後期			2			○			3	2					
	ケア実装特講	1年後期			2			○			4					2	
	小計（3科目）	—	6			—			10	4			3				
研究科目	看護科学特別研究	1～3通		6				○		10	5						
	小計（1科目）	—	6			—			10	5			5				
合計（7科目）				14	4		—			10	5			5			
学位又は称号		博士（看護学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係）										
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等										
3年以上在籍し、修了要件の単位16単位（基礎科目4単位以上、専門科目6単位、研究科目6単位）以上を修得し、かつ、学位論文を提出しその審査及び最終試験に合格すること。							1学年の学期区分			2期							
							1学期の授業期間			15週							
							1時限の授業の標準時間			90分							

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要																
(看護学研究科看護学専攻)																
科目区分	授業科目（仮称）の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外を除く
共通科目	看護学研究特論	1前		2			○			2	1				1	オムニバス
	看護倫理特論	1前		2			○			1					1	オムニバス
	看護教育特論	1後			2		○			2					1	オムニバス
	看護管理特論	1後			2		○			2					2	オムニバス
	コンサルテーション特論	1後			2		○			1					4	オムニバス・共同（一部）
	看護統計特論	1前			2		○			1	1	1				オムニバス
	看護ケア科学特論	1前			2		○				2				2	オムニバス・共同（一部）
	国際看護特論	1後				2		○		1	1				2	オムニバス・共同（一部）
	ケアコミュニケーション特論	1前				2		○		1	1	1			2	オムニバス・共同（一部）
	富山県の医療保健福祉特論	1前				2		○		1		2			2	オムニバス
	臨床薬理学特論	1後				2		○			1				1	オムニバス・共同（一部）
	フィジカルアセスメント特論	1後				2		※	○	1	1	1			1	オムニバス・共同（一部） ※講義
	病態生理学特論	1前				2		○		1					13	オムニバス・共同（一部）
小計（13科目）	—			6	20	0	—		11	8	5	0	0	31		
看護専門科目	基礎看護学特論	1前			2		○			1	2					オムニバス・共同（一部）
	基礎看護学特論演習Ⅰ	1後			2			○		1	3					共同
	基礎看護学特論演習Ⅱ	2前			2			○		1	1	2				共同
	成人看護学特論	1前			2		○			4	1					オムニバス・共同（一部）
	成人看護学特論演習Ⅰ	1後			2			○		4	1					オムニバス・共同（一部）
	成人看護学特論演習Ⅱ	2前			2			○		2	1	2				共同
	老年精神看護学特論	1前			2		○			3						オムニバス・共同（一部）
	老年精神看護学特論演習Ⅰ	1後			2			○		3	2					オムニバス・共同（一部）
	老年精神看護学特論演習Ⅱ	2前			2			○		1		2				共同
	母子看護学特論	1前			2		○			1	2					オムニバス・共同（一部）
	母子看護学特論演習Ⅰ	1後			2			○		1	3					オムニバス・共同（一部）
	母子看護学特論演習Ⅱ	2前			2			○		1	1	3				共同
	地域在宅看護学特論	1前			2		○			2	1					オムニバス
	地域在宅看護学特論演習Ⅰ	1後			2			○		2	2					共同
	地域在宅看護学特論演習Ⅱ	2前			2			○			1	3	1			共同
小計（15科目）	—			0	30	0	—		11	11	12	1	0			
高度実践看護科目（老年看護）	老年看護学原論	1前			2		○			2	2					オムニバス・共同（一部）
	高齢者アセスメント論	1前			2		○			1	1	1				オムニバス・共同（一部）
	老年医学特論	1前			2		○			1		1			6	オムニバス・共同（一部）
	高齢者高度看護実践論	1前			2		○			2	2	1			3	オムニバス・共同（一部）
	高齢者ケアシステム論	1前			2		○			1	2				3	オムニバス
	高度実践老年看護学演習Ⅰ（慢性期における老年看護）	1後			2			○		1	1	2			3	オムニバス・共同（一部）
	高度実践老年看護学演習Ⅱ（認知症老年看護）	1後			2			○		2	1				1	オムニバス・共同（一部）
	高度実践老年看護学実習Ⅰ（専門看護師の役割実践）	1後			1				○	2	2	1				共同
	高度実践老年看護学実習Ⅱ（認知症高齢者への看護実践）	2前			6				○	2	2	1				共同
	高度実践老年看護学実習Ⅲ（慢性期における老年看護実践）	2前			3				○	2	2	1				共同
小計（10科目）	—			0	24	0	—		5	3	2	0	0	16		
研究科目	看護学特別研究（研究コース）	2通		10				○		11	11					
	特定課題研究（専門看護師コース）	2通		6				○		2	2	1				
	小計（2科目）	—		16	0	0	—		11	11	1	0	0			
合計（40科目）	—			22	74	0	—		11	11	12	1	0	45		

学位又は称号	修士（看護学）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（看護学関係）	
修了要件及び履修方法			授業期間等	
<p>【研究コース】 本研究科に2年以上在籍し、 ①共通科目から8単位（必修8単位）以上、 ②看護専門科目から1分野を選択し、特論2単位及び演習4単位、 ③共通科目及び選択しなかった看護専門科目の特論から6単位以上、 ④看護学特別研究10単位 の合計30単位以上を修得し、修士論文の提出及び論文審査に合格すること。</p> <p>【専門看護師コース】 本研究科に2年以上在籍し、 ①共通科目から16単位（必修6単位、専門看護師コース必修10単位）以上、 ②高度実践看護科目（老年看護）10科目24単位、 ③特定課題研究6単位、 合計46単位以上を修得し、特定課題研究論文の審査に合格すること。</p>			1学年の学期区分	2学期
			1学期の授業期間	15週
			1時限の授業時間	90分

教 育 課 程 等 の 概 要															
(富山県立大学看護学部看護学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養科目	社会・環境	経済学Ⅰ	1前		2		○							1	
		経済学Ⅱ	1後・2前		2		○							1	
		社会学	1前		2		○							1	
		法学Ⅰ	1前・後		2		○							1	
		法学Ⅱ	2前		2		○							1	
		日本国憲法	1前・後		2		○							1	
		科学技術と社会	1前		2		○							2	
		富山と日本海	1前		2		○							2	
		環境論	1後		2		○							9	オムニバス 共同(一部)
	人間の理解	言語・文化	コミュニケーション論Ⅰ	1前		2		○						1	
			コミュニケーション論Ⅱ	1前・2前		2		○						1	
			コミュニケーション演習	1後	1				○					1	
		文学Ⅰ	2前		2		○						1		
		文学Ⅱ	1後		2		○						1		
		比較文化Ⅰ	1前		2		○						1		
		比較文化Ⅱ	1前		2		○						1		
		国際関係論	1前		2		○						1		
		海外留学科目(中国)	1・2・3・4休		2		○						1	集中	
	海外研修科目(米国)	1・2・3・4休		1				○				1	集中		
	精神・身体	心理学Ⅰ	1前		2		○						1		
		心理学Ⅱ	2前		2		○						1		
		コミュニケーションの社会学	1前		2		○						1		
		倫理学	2前		2		○						1		
		哲学	1後		2		○						1		
		健康科学Ⅰ	1前		2		○						1		
		健康科学Ⅱ	1前・後		2		○						1		
		体力科学	1後		2		○						1		
		体力科学演習	1前		1				○				3	共同	
	自然・情報	数学	1後		2		○						1		
		物理学	1前		2		○						1		
		化学	1前		2		○						1		
		生物学	1後		2		○						1		
		情報科学	1後		2		○						1		
		情報科学演習	1前		1				○				1		
	外国語	英語1	1前		1				○				1		
		英語2	1前		1				○				2		
		英語3	1後		1				○				1		
		英語4	1後		1				○				2		
		英語5	2前		1				○				2		
		英語6	2後		1				○				2		
		海外語学研修科目	1・2・3・4休		1				○				1	集中	
中国語Ⅰ		2前		1				○				1			
中国語Ⅱ	1・2・3・4休		1				○				1	集中			
小計(41科目)		-		7	66	0		-		0	0	0	0	-	35
側面的人・間精神的	形態機能学Ⅰ(解剖学)	1前		2				○					5		
	形態機能学Ⅱ(生理学)	1前		2				○					5		
	形態機能学Ⅲ(生化学)	1後		1				○					4		
	生涯発達心理学	1後		2				○					1		
	生体と放射線学	2後		1				○					1		
	病理学	1後		1				○					4		
疾病と回	感染と防御	1後		1				○					2		
	薬理学	2前		2				○					4		
	成人臨床医学Ⅰ(外科系)	2前		1				○		2	1	2	1	6	
	成人臨床医学Ⅱ(内科系)	2前		1				○		2		1	3	9	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(富山県立大学看護学部看護学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外(助手を除く)の教員
専門基礎科目	回復過程	老年臨床医学	2前		1			○			2	2	1	3	5	オムニバス
		小児臨床医学	2前		1			○				1	2	1	8	
		母性臨床医学	2前		1			○			1	2	1	4	3	
		精神臨床医学	2前		1			○			1		2	1	3	
		栄養学	2後		2			○							2	
	保健医療福祉と社会	保健医療福祉行政論	2前		1			○				1	2		2	
		公衆衛生学	2後		1			○					1		2	
		地域ケアシステム論	2後		1			○			2	1	3		1	共同
	安全と快適な看護を支える工学	看護ケアと工学	2前		2			○				2			7	
		生活支援と情報	2後		1			○				1		1	1	オムニバス共同(一部)
先端医療論		2後		1			○			1				3	オムニバス	
	小計(20科目)	—		27	0	0	—			11	11	15	1	—	78	
専門科目	キャリア	トピックゼミⅠ	1前		1			○			12	9	18	18		共同
		トピックゼミⅡ	1後		1			○			12	10	17	16		共同
		トピックゼミⅢ	2前		1			○			12	10	17	16		共同
		トピックゼミⅣ	2後		1			○			12	10	17	16		共同
		キャリア体験実習	1前		1				○		12	10	18	18		共同
	基礎看護学	看護学概論	1前		2			○			1	3				オムニバス
		基本看護技術	1前		1			○			0	3	4	4		オムニバス共同(一部)
		生活援助看護技術	1後		2			○			0	3	4	4		オムニバス共同(一部)
		フィジカルアセスメント	1後		1			○			0	3	4	4		オムニバス共同(一部)
		看護過程論	2前		1			○			1	3	4	4		オムニバス共同(一部)
		診療援助看護技術	2前		2			○			0	3	4	4		オムニバス共同(一部)
		看護倫理学	3前		1			○			1					
		看護教育学	4前		1			○			1					
		看護管理学	4前		1			○				1			1	オムニバス
		基礎看護学実習Ⅰ	1後		1				○		1	3	3	4		共同
	基礎看護学実習Ⅱ	2後		2				○		1	3	3	4		共同	
	成人看護学	成人看護学概論	2前		1			○			4	1	3	4		オムニバス
		成人看護方法論Ⅰ(急性・回復)	2後		1			○			2	1	2	1		オムニバス共同(一部)
		成人看護方法論Ⅱ(慢性)	2後		1			○			2		1	3		オムニバス
		成人看護方法論Ⅲ(緩和)	3前		1			○			2		1	3		オムニバス共同(一部)
成人看護学演習Ⅰ(急性・回復)		3前		1			○			2	1	2	1		共同	
成人看護学演習Ⅱ(慢性・緩和)		3前		1			○			2		1	3		共同	
成人看護学実習Ⅰ(急性・回復)		3後		3				○		2	1	2	1		共同	
成人看護学実習Ⅱ(慢性・緩和)		3後		3				○		2		1	3		共同	

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(富山県立大学看護学部看護学科)																		
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外(助手を除く)の教員		
専 門 分 野 II	老年看護学	老年看護学概論	2前		1			○			2	2					オムニバス	
		老年看護学方法論	2後		1			○				2	1	3			オムニバス 共同(一部)	
		老年看護学演習	3前		1				○			1	1	3			共同	
		老年看護学実習Ⅰ	3前		2					○	2	2	1	3			共同	
		老年看護学実習Ⅱ	3後		2					○	2	2	1	3			共同	
	小児看護学	小児看護学概論	2前		1			○				1	2					
		小児看護学方法論	2後		1			○				1	2	1				オムニバス
		小児看護学演習	3前		1				○			1	2	1				共同
		小児看護学実習Ⅰ	3前		1					○		1	2	1				共同
		小児看護学実習Ⅱ	3後		1					○		1	2	1				共同
	母性看護学	母性看護学概論	2前		1			○			1	2						オムニバス
		母性看護学方法論	2後		1			○			1	2	1	4				オムニバス
		母性看護学演習	3前		1				○		1	2	1	4				共同
		母性看護学実習	3後		2					○	1	2	1	4				共同
	精神看護学	精神看護学概論	2前		1			○			1		2	1				
		精神看護学方法論	2後		1			○			1		2	1				オムニバス
		精神看護学演習	3前		1				○		1		2	1				共同
		精神看護学実習	3後～4前		2					○	1		2	1				共同
	在宅看護学	在宅看護学概論	2前		1			○			1							
		在宅看護学方法論	2後		1			○			1		2					オムニバス 共同(一部)
		在宅看護学演習	3前		1				○		1		2					共同
		在宅看護学実習	3後～4前		2					○	1		2	1				共同
	地域看護学	地域看護学概論	2後		1			○			2					1		オムニバス 共同(一部)
		地域看護学方法論	2後		1			○			2	1	3					オムニバス
		地域看護学演習	3前		1				○		2	1	3					共同
		地域看護学実習	4前		1					○	2	1	2					共同
	統 合 分 野	多職種連携論	4前		1			○			2	1	3					オムニバス
		国際看護活動論	4後		1			○			1	1				2		
		災害看護学	4後			1		○			1							
		救命救急看護学	4後			1		○			1							
		感染看護学	4後			1		○				1					1	
		認知症看護論	4後			1		○			1						2	オムニバス
		糖尿病看護論	4後			1		○			1		1	2				オムニバス
看護学研究Ⅰ		3前		1			○			1	2	2					オムニバス	
看護学研究Ⅱ		4通		2				○		12	10	18	18	1			共同	
看護ケアとユマニチュードⅠ		1前		1				○		1	1	1	14		8		集中・オムニバス 共同(一部)	
看護ケアとユマニチュードⅡ		2前		1				○		1	1	1	14		8		集中・オムニバス 共同(一部)	
看護ケアとユマニチュードⅢ	3前		1				○		1	1	1	13		8		集中・オムニバス 共同(一部)		
看護ケアとユマニチュードⅣ	4前		1				○		1	1	1	14		8		集中・オムニバス 共同(一部)		
小計(63科目)				72	5	0				12	10	18	18		15			
合計(125科目)				106	71	0				12	10	18	18		128			
学位又は称号	学士(看護学)			学位又は学科の分野				保健衛生学関係(看護学関係)										
卒業要件及び履修方法										授業期間等								
卒業要件として、 教養科目：25単位以上(必修7単位、選択18単位以上) ただし、以下の各区分における単位数の修得を必修とする。 〔区分〕人間の理解：「社会・環境」から、選択2単位以上 「言語・文化」から、必修1単位、選択2単位以上 「精神・身体」から、必修3単位、選択2単位以上 自然・情報：必修3単位、選択2単位以上 外国語：選択4単位以上 専門基礎科目：27単位(必修27単位) 専門科目：74単位以上(必修72単位、選択2単位以上) 合計126単位以上を修得すること。(履修科目の登録の上限：48単位(年間))										1学年の学期区分		2期						
										1学期の授業期間		15週						
										1時限の授業時間		90分						

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学研究科看護学専攻博士後期課程)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎科目	看護学研究特講		<p>ケア創成看護学の発展に寄与する研究を推進するための基盤となる看護学の主な研究方法について探究する。看護現象や概念の本質的理解を深める質的研究やコミュニティにもとづく参加型研究（CBPR）、尺度開発や変数の因果関係を明らかにする実験研究等について学び、科学的思考に基づいた研究方法について理解を深める。さらに、看護ケア創出のための研究方法や研究結果から得られた知見を看護実装に応用するために必要な、研究方法について探究する。</p> <p>(オムニバス・共同（一部）／全15回)</p> <p>(5 越田 美穂子 / 4回) ケア創成看護学の展開の場となる多元的文化社会が看護科学に求めるものについて探究する。さらにケア創成看護学の本質的理解を深めるための看護実践・看護学研究のパラダイムシフト並びにエビデンスに基づく臨床の意思決定モデルと臨床研究成果の客観的評価について講義する。また看護現象や概念の本質的理解を深める質的研究が生まれた背景と意義について理解し、研究を展開するうえで、重要な厳密なプロセスに基づいた質的研究方法や、評価項目・チェックリスト等について講義する。さらに看護研究における質的研究方法の特徴およびGTA並びにCBPRについて講義する。さらに文献を用いて、GTA・CBPRの研究成果と限界について考察する。</p> <p>(2 岡本 恵里 / 2回) 質的研究におけるサブストラクションの原理とプロセス並びに質的研究論文のクリティークとサブストラクションの関係を講義し、そのうえで研究計画・論文作成のためのサブストラクションを探究する。さらに、定性的データの重要性や調査設計、インタビュー調査に重要なコミュニケーション力について探究する。</p> <p>(15 寺井 孝弘 / 4回) 量的研究における尺度開発について、尺度の歴史と尺度開発の意義や尺度の種類、並びに理論ベースの重要性、尺度の仮定や適用の限界について講義する。また、開発における構成概念の明確化、質問項目の作成、第1次的検討、質問紙の検討といった一連の開発プロセスを講義し、さらに文献を用いて、尺度の開発手続きと留意点、および尺度を用いた研究のエビデンスに基づく介入の可能性と課題を考察する。</p> <p>(11 浦井 珠恵 / 3回) 介入研究が生まれた背景と意義や介入研究のデザイン、介入研究における倫理性の確保について講義する。また、介入研究における人または人以外を対象とした実験研究・準実験研究のデザインの妥当性や介入の検証プロセス、クロスオーバー試験における持ち越し効果と時期効果について探究するとともに文献を用いて、実験研究・準実験研究の企画・実施・論文作成の留意点について考察する。</p> <p>(5 越田 美穂子・2 岡本 恵里・15 寺井 孝弘・11 浦井 珠恵 / 2回) (共同) 1つの研究方法論を取り上げ、興味関心のあるテーマの文献をクリティークし、研究インテグリティの視点から「研究の妥当性と信頼性を確保するための原則」・「研究者が研究活動に取り組む際に守るべき行動基準」についてプレゼンテーションを行う。</p>	(オムニバス・共同（一部）)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎科目	ケアシステム特講		<p>地域や社会の保健医療福祉の課題解決のために、システムズアプローチの観点から健康課題についての構成要素および要素間の関係・関連と階層性について検討し、解決に必要なケアシステムについて探究する。(オムニバス方式・共同(一部) / 全15回)</p> <p>(3 片田 裕子 / 4回) 様々な分野の課題解決の共通基盤となるシステムズアプローチの概要およびケアシステム論について理解を深める。セルフケア確立の課題について医療を受ける対象者の視点から系統的に分析し、必要なケアシステムを探究する。</p> <p>(1 松井 弘美 / 2回) 妊娠期・分娩期のケアの質と安全確保の課題について、援助者のヒューマンファクターの視点から系統的に分析し、必要なケアシステムを探究する。</p> <p>(7 城戸口 親史 / 5回) 諸外国と日本における感染対策の課題解決について社会基盤の視点から系統的に分析し、必要なケアシステムを探究する。</p> <p>(12 伊藤 裕佳 / 3回) 長期ケア施設において利用者のQOL向上に寄与する組織課題について系統的に分析し、ケア提供者への人材育成、多職種連携の方法について探究する。</p> <p>(1 松井 弘美、12 伊藤 裕佳 / 1回) (共同) 討論 自身の興味、関心のある組織レベルにおけるケアシステムについて検討する。</p>	(オムニバス・共同(一部))
			<p>感染症の流行、地球環境問題、災害・紛争地域の問題、健康格差の問題など地球規模での健康課題を認識し、人々の健康維持・改善に向けたグローバルヘルスの取り組みについて熟考する。その上で、グローバルヘルス分野における課題の構造化について、多元的・多角的に検討する。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部) / 全15回)</p> <p>(4 張平平 / 3回) 日中共同研究からみた介護家族への文化的ケアの特徴及び、中国における脳卒中高齢者の退院後継続看護の課題の構造化について、多元的・多角的視点で検討する能力を養う。</p> <p>(8 比嘉肖江 / 1回) 日本及びインドネシアにおけるスピリチュアルケアの課題の構造化について、多元的・多角的視点で検討する能力を養う。</p> <p>(6 木谷尚美 / 1回) 認知症高齢者の増加による課題について、その構造および日本における高齢者の意思決定支援について多元的・多角的視点で検討する能力を養う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎科目	グローバルヘルス特講		<p>(13 小林絵里子/2回) グローバルヘルス・ヘルスプロモーションとしての母乳育児の課題、日本および諸外国の周産期医療の課題の構造化について、多元的・多角的視点で検討する能力を養う。</p> <p>(9 清水 暢子/3回) グローバルヘルスに求められる人材、介護予防技術のICT化及び、タイにおけるコミュニティ支援の課題の構造化について、多元的・多角的視点で検討する能力を養う。</p> <p>(17 中村安秀/1回) 日本におけるグローバルヘルスの取り組み及び課題について、多元的・多角的視点で検討する能力を養う。</p> <p>(18 清水文代/1回) 在日外国人が抱える健康課題について、多元的・多角的視点で検討する能力を養う。</p> <p>(9 清水 暢子・6 木谷尚美・4 張平平/1回) (共同) 日本の高齢者の生きがいづくりや介護予防における課題を1つ取り上げ、その構造について多元的・多角的視点で検討する能力を養う。</p> <p>(4 張平平・8 比嘉肖江・6 木谷尚美・13 小林 絵里子・9 清水 暢子/2回) (共同) 関心のある分野における健康課題を取り上げ、その構造について多元的・多角的視点で検討する能力を養う。その上で、富山県が抱える健康課題について、多元的・多角的視点で検討する能力を養う。</p>	(オムニバス・共同 (一部))
			<p>分析対象となる定性的データ・定量的データの特徴やデータ駆動型アプローチと仮説駆動型アプローチとの相違点を学ぶことで、地域や社会の保健医療福祉の課題に応じたデータの捉え方やその収集方法・分析方法を考察する。また、データの分析に基づき解決方法を見出すデータ駆動型アプローチへの理解を深めることで、保健医療福祉の臨床に蓄積されたデータの新たな活用方法について検討する。 (オムニバス方式・共同 (一部) /全15回)</p> <p>(11 浦井珠恵/2回) 褥瘡の同一部位への再発の問題に対し、褥瘡の予防・ケア・転帰に関して臨床で蓄積されたデータを分析した結果を踏まえ、定量的データの分析方法について学ぶ。また、データ駆動型アプローチを用いることの意義について考える。</p> <p>(7 城戸口親史/2回) 看護師の針刺し事故防止の課題に対し、現任教育に関して蓄積されたデータ(看護職者の特性)を分析した結果を踏まえ、定量的データの分析方法について学ぶ。さらに、例示した課題解決に必要なデータの種類と分析方法について討議する。</p> <p>(13 小林 絵里子/2回) 看護教育における課題に対し、シミュレーション教育における学習者の理解度や技術習得効果を測るために可視化されたデータを分析した結果を踏まえ、定量的データの分析方法について学ぶ。さらに、看護教育における現象のデータの可視化とその分析方法について討議する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	データ駆動型ケア特講		<p>(10 林 静子/2回) 看護実践能力育成に向けた課題に対し、看護師の臨床判断能力として蓄積された観察時の定量的な視覚データと定性的な思考データを組み合わせた結果を踏まえ、定量的データと定性的データの分析方法について学ぶ。さらに、看護実践における現象のデータの可視化とその分析方法について討議する。</p> <p>(9 清水 暢子/1回) 保健分野のオープンデータを理解し、オープンデータの分析方法と結果に基づく保健分野の課題解決について討議する。</p> <p>(16 中村正樹/1回) データの信頼性ならびにデータを取り扱う際の倫理的配慮について学ぶ。データサイエンスの理論に基づいたデータ駆動型アプローチの概念について学び、仮説駆動型アプローチと比較しながら理解を深める。</p> <p>(1 松井弘美/1回) 学校保健教育の分野で蓄積された定性的データの分析結果を例示し、定性的データの分析方法と分析結果に基づく課題解決について討議する。</p> <p>(11 浦井珠恵・16 中村正樹/1回 (共同)) 福祉分野で蓄積されたオープンデータを用い、データの分析方法・活用方法について討議する。</p> <p>(11 浦井珠恵・7 城戸口親史・1 松井弘美・13 小林 絵里子・10 林 静子/3回 (共同)) 各自の研究テーマもしくは関心のある研究テーマを選定し、データ駆動型アプローチを用いた先行研究(英語論文)のクリティークを行う。クリティークした内容をプレゼンテーションし、討議することでデータ駆動型アプローチに関する理解を深める。また、データ駆動型アプローチの活用による課題解決で創出される価値について討議する。</p>	(オムニバス・共同 (一部))
			<p>社会の保健医療福祉の課題解決のために、看護現象に関する定性的・定量的データの分析結果に基づいて、看護介入プログラムや教育プログラムを開発していく過程について理解を深める。また、DX展開が進む未来社会において、転換が必要なパラダイムを見据えて、新しいケアを創出していく方法と看護の責任ならびに役割について探究する。 (オムニバス方式・共同 (一部) /全15回)</p> <p>(6 木谷 尚美/3回) ケア創出の概念、歴史および看護の普遍性と多様性について教授する。今後のDX展開が進む未来社会に求められる看護の役割および、看護人材について享受する。健康高齢者および初期認知症の人の意思把握のための介入プログラムの構築課程について教授する。</p> <p>(2 岡本 恵里/2回) 保健医療が社会システムとして機能するためのパラダイム転換の必要性、患者の価値中心となる看護の実現、個人を取り巻く健康の社会的決定要因に働きかける看護実践について教授する。新しいケアの在り方を探究する意義と看護職の責任について教授する。また、看護学生向けの「胸部のフィジカルアセスメント」自己学習用電子教材を用いた教育プログラム開発の過程について教授する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	ケア創出特講		<p>(4 張 平平/2回) ケア創出に寄与するDNPによる高度看護実践、さらなる実践力の向上がもたらされるICTの有効活用について討議する。また、家族介護力の向上を目指した教育プログラムの構想、および家族のニーズと特徴を把握する研究過程について教授する。</p> <p>(12 伊藤 裕佳/1回) 長期療養施設におけるケアの質向上を目指した、介護職の人材育成プログラムの構築過程について教授する。</p> <p>(14 河相 てる美/1回) 地域在住女性高齢者に対する転倒予防のための介入プログラムの構築過程について教授する。</p> <p>(6 木谷尚美・12 伊藤裕佳・14 河相てる美/2回) (共同) 高齢者やケア提供者が抱える課題に関する現象を、定性的・定量的データに基づいて評価することの重要性、および新たなケアを創出していくことの意義と実行可能性について討議する。また、人々への介入プログラム構築に関する先行研究を1つ取り上げ、その妥当性について検討する。</p> <p>(4 張平平・2 岡本恵里/2回) (共同) 看護学生や介護家族が抱える課題に関する現象を、定性的・定量的データに基づいて評価することの重要性、および新たな教育プログラムを創出していくことの意義と実現可能性について討議する。また、教育プログラム構築に関する先行研究を1つ取り上げ、「研究枠組み、分析方法、プログラム評価」について検討する。</p> <p>(6 木谷尚美・2 岡本恵里・4 張平平・12 伊藤裕佳・14 河相てる美/2回) (共同) これまでの学習内容をもとに、保健医療が社会システムとして機能するために看護職が果たすべき役割、および未来社会に向けて、新しいケアを創出するためには、どのようなパラダイムに対応していく必要があるのかについて討議する。学修者自身の関心領域における課題解決に向けた看護ケアの創出の意義と実行可能性について検討する。</p>	(オムニバス・共同 (一部))
			<p>地域や社会の保健医療福祉の課題解決やケアの質および有効性を向上させるため、研究成果であるエビデンスに基づく介入 (Evidence-based interventions :EBI) を、組織や地域などの多様なステークホルダーとの協働により現場で実装し定着させるための理論的背景や、新たな課題解決プロセスを構築していく方法を探究する。</p> <p>(オムニバス方式・共同 (一部) / 全15回)</p> <p>(19 今村 晴彦/ 2回) 実装科学・実装研究の理論とフレームワークおよびリアルワールドデータの活用について教授し、保健医療従事者が実装研究を推進するうえで考慮すべき観点について探究する。</p> <p>(20 齋藤 順子/ 2回) 実装科学としての看護研究の必要性およびエビデンス・プラクティスギャップの現状について教授し、保健医療従事者が多様なステークホルダーと協働して取り組む重要性について探究する</p>	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	ケア実装特講		<p>(2 岡本 恵里/ 3回) 看護学においてエビデンスを実装・普及させる意義、および「認知症本人と家族介護者の語り」Webサイトを構築したプロセスや活用状況の分析結果について教授する。体験者の貴重な語りデータをより社会に普及させるための課題について探究する。</p> <p>(3 片田 裕子/ 2回) 糖尿病患者の血糖コントロールを目的に開発した、リラクゼーション法を取入れたセルフケア教育プログラムの研究方法について教授する。教育プログラムを社会に普及させるためのアプローチについて、個人教育と集団教育の継続性から探究する。</p> <p>(5 越田 美穂子/ 2回) 行政新人保健師向けに開発した人材育成プログラムの研究方法とインパクト評価について教授する。社会実装を目指し、保健行政関係者等のステークホルダーとの協働について探究する。</p> <p>(9 清水 暢子/ 3回) 農福連携畜産型事業開発・障害に対応したスマート看工農福連携モデル開発の研究方法と評価内容について教授する。ソーシャルインクルージョンの実現やSDGsを念頭に置いた社会実装に向けたアプローチについて、対象者と事業者双方の視点から探究する。</p> <p>(2 岡本 恵里・3 片田 裕子・5 越田 美穂子・9 清水 暢子/ 1回) (共同) 自身の研究テーマを取り上げ、エビデンスに基づくプログラムや介入 (EBI) が、組織や地域などの多様なステークホルダーとの協働により現場で実装し定着させるための課題について検討する</p>	(オムニバス・共同 (一部))
			<p>専門科目の特講、演習の学修を踏まえ、地域や社会の保健医療福祉に対する学生の問題意識に基づき、課題解決に向けたケア創成に関する研究を計画・実施し博士論文としてまとめる。この過程を通して、研究プロセスを自立して遂行する能力を培う。</p> <p>(1 松井 弘美) 周産期にある女性とその家族の健康課題および支援者である助産師の基礎教育・現任教育に関連した課題解決のための研究指導を行う。周産期にある女性とその家族を取り巻く状況や助産師教育の状況を多面的・多角的視点から分析し、研究課題を明確にする。根拠となるデータに基づき課題解決に向けた看護ケアや教育プログラムの開発、検証を行う。</p> <p>(2 岡本 恵里) 看護基礎教育・現任教育の教育方法・教育効果に関連した課題解決のための研究指導を行う。看護教育実践の場で生じている教育現象や人材育成に関する課題を多面的・多角的視点から分析し、研究課題を明確化する。根拠となるデータに基づき、課題解決に向けた看護に関する教育プログラムの開発とその効果検証を行う。</p> <p>(3 片田 裕子) 慢性疾患を有する対象およびその家族とケアを実践する看護師等を対象に健康課題とセルフケアの課題解決に向けたケア創成や教育システムに関する新しい概念と相互関係の視点から看護を発展させるための研究課題を選定し、新たな研究方法論へのチャレンジを検討しながら、目的に即した適切な研究方法を選択・工夫し、先進的な看護学を拓く論文を作成できるよう指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
研究科目	看護科学特別研究		<p>(4 張 平平) グローバル化と高齢化が進展する中、脳卒中高齢者の在宅療養生活が続けられる家族介護力を確保するための日中共同研究を遂行している。また、地域高齢者のヘルスプロモーションに向けて、「AIモデルを用いた経穴刺激セルフケア方法による高齢者の腰痛改善状況の予測」に関する看工連携研究を実施し、東洋医学の知恵を活かした新しい看護ケアの創出に取り組む。</p> <p>(5 越田 美穂子) 公衆衛生看護学に関連した課題解決のための研究指導を行う。先行研究によるエビデンスを基盤に、地域健康課題を解決するための実装に向けた、効果的な予防・保健活動や、公衆衛生看護にかかわる人材育成プログラム開発等の効果検証を行う。</p> <p>(6 木谷 尚美) 認知症高齢者の意思決定に関連した課題解決のための研究指導を行う。認知症高齢者の意思決定に関する地域社会の課題を多元的・多角的視点から分析し、研究課題を明確化する。根拠となるデータに基づき、課題解決に向けた認知症高齢者の意思決定を支援するためのプログラム開発とその効果検証を行う。</p> <p>(7 城戸口親史) 感染予防に関連した課題解決のための研究指導を行う。感染対策に関する対策と現状をデータに基づき分析し、課題解決に向けた現任教育に関するプログラムの開発とその効果検証を行う。</p> <p>(8 比嘉 肖江) スピリチュアルケアに関連した課題解決のための研究指導を行う。終末期ケアや死別ケアに関する地域社会の課題を多元的・多角的視点から分析し、異文化との比較検討を通して研究課題を明確化する。根拠となるデータに基づき、課題解決に向けたスピリチュアルケアに関する教育プログラムの開発とその効果検証を行う。</p> <p>(11 浦井 珠恵) 褥瘡の同一部位への再発に関連した課題解決のための研究指導を行う。データ駆動型アプローチを用い、臨床で蓄積されたデータを分析することで研究課題を明確化する。仮説駆動型アプローチを用いた定量的データの分析や量的研究手法（実験研究・準実験研究）を用いた看護ケアのエビデンス構築を行う。</p> <p>(9 清水 暢子) 公衆衛生看護分野においても、重要な役割を果たしているデータサイエンス技術、ICT技術であるが、NIRS（近赤外線分光法）を用いた脳血流量測定手法も活用しながら、ヒューマンサイエンスや国内外のグローバルな看護ケアの視点を統合し、精神保健や障害者福祉分野、高齢者の健康管理と介護予防における活用実践について教授を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			<p>(12 伊藤 裕佳) 高齢者長期ケア施設の看護に関連した研究指導を行う。高齢者長期ケア施設に関するケアシステム上の課題を多元的・多角的視点から分析し、研究課題を明確化する。根拠となる定性的・定量的データに基づき、課題解決に向けた人材育成に関する教育プログラムの開発とその効果検証を行う。</p> <p>(13 小林 絵里子) 根拠となるデータに基づき、周産期医療のハイリスク化やNICU入院児の増加に関連した課題を多元的・多角的視点から分析し、研究課題を明確化する。定量的・定性的データや尺度等のエビデンスに基づき、ケア開発や研究課題のための研究指導を行う。</p> <p>(10 林 静子) 看護実践能力育成に関連した課題解決のための研究指導を行う。看護実践能力育成に関する臨床現場の課題を多元的・多角的視点から分析し、研究課題を明確化する。根拠となる看護師の臨床判断能力として蓄積された定性的・定量的データに基づき、課題解決に向けた看護実践能力向上に関するICTを活用した教育プログラムの開発と効果検証を行う。</p> <p>(14 河相 てる美) 臨床看護学における運動器に着目した転倒予防に関する課題に取り組む。地域在住高齢者の移動機能を保持し転倒予防を目的とした運動介入による新しいケアの探究を研究課題とする。根拠となるデータに基づき、健康寿命の延伸のための課題解決に向けた運動に関する教育プログラムの開発とその効果検証を行う。</p> <p>(15 寺井 孝弘) 子どもと家族に関連した課題解決のための研究指導を行う。子どもと家族に関する地域社会の課題を多元的・多角的視点から分析し、研究課題を明確化する。根拠となるデータや尺度等のエビデンスに基づき、課題解決に向けた実装科学について探究する。</p>	